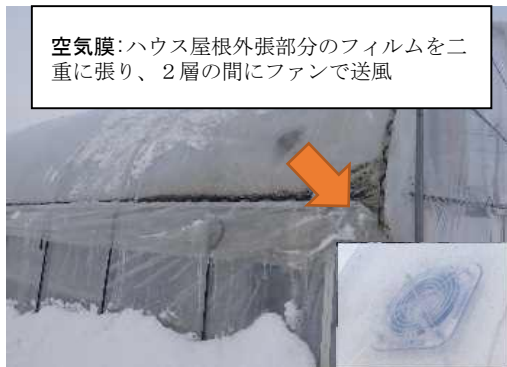


# 温室効果ガス削減効果が高い取組【施設園芸・無加温パイプハウス】

## 1 無加温パイプハウスとは

- 暖房を使わずに厳冬期にビニールハウスで野菜を育てる技術が、(地独)道総研農業試験場によって確立されました。
- ハウス屋根外張りを二重にして空気膜を作ったり、ハウス内の内側にさらに小さなハウスやトンネルを作ったり、不織布をべた掛けしたりして、ハウス内の最低温度を外気温よりも9~23℃高く維持することができます。
- 上川北部や空知、渡島、日高管内などで取り組まれています。

空気膜:ハウス屋根外張部分のフィルムを二重に張り、2層の間にファンで送風



トンネル:作物の上に、アーチ状のパイプを設置し、その上にフィルムを展開



内張:通常ハウスの内側にさらに小さなビニールハウスを設置



べたがけ:不織布を作物の上に直接かけて覆う



作型の例



## 2 どんな野菜が栽培できるのか

- 道総研農業試験場のマニュアルでは、以下の野菜の栽培技術を提供していますが、「ほうれんそう」や「しゅんぎく」、「万能ねぎ」、「はくさい」などの取組事例もあります。

リーフレタス



結球レタス



こまつな



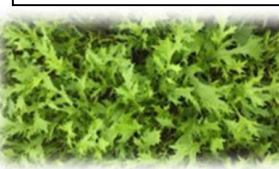
チンゲンサイ



紫からしな



みずな



からしな(わさびな)



小かぶ



ベビーリーフ



## 3 取組のメリット

- ① 冬季間に暖房を使用しない→燃料費がかからない  
→経費節減=温室効果ガス削減に貢献
- ② 冬場に道内の消費者に道内産野菜を提供  
→高収益を期待→地産地消に貢献
- ③ 冬場に農業収益を確保